

ひぶ 火伏せ行事



3月中頃の日曜日、田村市船引町北鹿又の館集落と南集落で、集落内の無火災を祈願する行事が「火伏せ」です。

館と南は隣接し、各集落内のほぼ中央にそれぞれ火産霊神の碑があり、祭場となります。全戸で杭木と細竹、小手縄をそれぞれ持ち寄り、碑を囲むように細竹を立てしめ縄をはります。さらにその外側に杭木を立て、細竹を巻きます。その作業が終わると、火難防除の祈祷がおこなわれます。碑のそばにあらかじめ穴を掘っておき、火のついたマッチとセリを入れ、ひょうたんに入れたお神酒でその火を消し、榊をあげて終了します。

火難防除を祈願する火伏せの行事は、市内各地でおこなわれていますが、その中であって館集落と南集落でおこなわれている火伏せの行事は、火が暴れないようにとの願いをこめ、火産霊神の碑を杭木と細竹で垣（祭場）を作り囲うという珍しい風習が残ります。明治初期に大火があつて集落の家々が焼失し、火の手が止まったところが現在の垣（祭場）のあたり（館、南とも）で、その場所に火産霊神を祀り、火伏せの行事が集落全戸で毎年（南は隔年）おこなわれるようになったとされています。

◎南集落の火伏せ行事



①細竹、杭木、縄を持って集まります。杭木は「みずの木」を使います。昔は正月にもじった縄を使っていたそうです。



②火産霊神の碑を囲むように、杭木を打ち込みます。背丈よりも長い杭木を打ち込むのは一苦労です。



③火産霊神の碑を動かし、深さ 20 ㌢ほどの穴を掘ります。この穴に、擦ったマッチを入れます。



④杭木に細竹を巻いていきます。向きは反時計回り。また、家によって細竹を巻く場所が決まっています。



⑤先ほど掘った穴へマッチを擦り入れ、ひょうたんに入れたお神酒でそれを消し、火除けの祈願をします。



⑥火産霊神の碑をもとの位置に戻し（火が出てこないようにふたをする）、火伏せ祭は終了します。

※館集落の行事に係る作業や祈禱のながれもほぼ同じです。